

30 南山大学 経済学部 経済学科合格 / 33 回生 2014 年(平成 25 年度)卒

私が受験生になって初めにしたのは、[毎日すること]を決めることです。なんだかんだで1・2年でほとんど勉強をしてなかった人もいます。私も毎日ほぼ0でした。テスト週間すら0でした。だからまずは、夏休みまでに、毎日続けることを少しずつ増やしました。その中で、私にとって一番役に立ったと思ったのが、英語の毎日プリントです。私のやり方は、とりあえずゆっくり意味を考えながら読む。(わからなかった単語に印をつけながら)次にわからなかった単語を調べる。そのとき、英文の下に単語の意味が書いてあったとしても、シスタンで調べた方がだんだん見慣れてきていいと思います。(ノートか何かに調べた単語とその訳をメモる)それからもう1回ゆっくり意味を考えながら読む。それでもわからないときは、訳を見る。これを、朝学でやりました。それで、夜寝る前に2, 3回音読しました。でも、これだけでは暗記が不得意な人はきっと覚えられないと思います。だから私は、次の日の朝学で、その日の毎日プリントを読む前に、前の日にわからなかった単語のメモを毎日書いて覚えました。確実に覚えた自信がつくまで、毎日書きました。だから、日に日に朝学で覚えるべき単語が増えました。土日はこれと同じことを、模試の英文や授業で使った英文でもやりました。そうすると、シスタンにも載っていない単語も覚えられました。それと、ネクステとシスタンを夏休みが終わるまでに完璧にしておく、後が楽だと思います。

もう1つオススメなのが、(きっと毎日音楽を聴く人って多いと思います。)受験の1年間だけは、音楽CDの代わりに受験に関するCDを聴くんです。もちろんリスニングのCDを聴くのもいいと思いますが、聞き流してしまいがちだと思います。それよりは、ネクステやターゲットなどのCDで単語の発音を聴いたりした方がいいと思います。毎日違う単語を聴くよりは、1週間単位で範囲を決めたりした方が覚えやすいと思います。

31 椋山女学園大学 生活科学部 管理栄養学科合格 / 33 回生 2014 年(平成 25 年度)卒

私が受験勉強をする上で一番やって良かったと思うことは、復習です。予習も復習も大切なのは当たり前かもしれませんが、どちらももしっかりやり切ることができない人も多いと思います。そのような人には特に復習がお勧めです。私は部活動をしていたときに忙しさや疲労にかこつけて全然授業の復習をしていませんでした。でも、引退してから部活動をしていた時間をすべて進路室前の廊下での居残り学習にあてました。そして、学校にいる間にその日の授業の復習をやりきるように心がけ、できなくても家でその日のうちには終わるようにしました。復習をすることで、授業で分かっていたつもりになっていたところや自分が何回やっても解けない苦手なところが分かったり、見直すことで新たな発見があったりすると、自分に知識が増えて楽しく思えてきました。そうやって勉強を楽しむことが大事だと実感しました。

復習の中でも特に効果があったのは、模試の見直しです。模試は総合的な問題なので、自分の弱いところがすぐに分かり対策ができると同時に、新しい知識が備わるのでやりがいがあります。私は模試直し用のノートをつくり、解説を読んで「なるほど。」とわかったことや「これは何だっけ?」とちょっとでもひっかかったりしたところをノートにまとめました。自分の力で考え、理解したことは忘れにくく、分からなくなってもそのノートを見ればすぐに納得できたので、やって良かったなと思います。学校で居残りするのもオススメです。まず何より分からないことを先生にすぐに質問できるので、うじうじ悩むことがなく無駄なストレスがかからないです。そして、周りの友達からの刺激です。私はずーっと受験の前まで最終下校時刻まで居残りし続けました。一人だったらもうそろそろいいか、今日ぐらいいいか、とどうしても甘えがでてしまうけれども、私は友達と居残りすることで、友達はまだ頑張っていると思って、最後まで残り続けることができました。でも、刺激を受けすぎてダメだと思います。私は秋くらいに、同じ進路を目指す友達が、先生から借りた問題集を解いているのを知り、私も何か新しい問題集を始めなくっちゃと焦ったときもありました。でも自分のことを考えてみると、私は基礎が苦手なんだから、応用より基礎固めをした方が良く、基礎をや

り続け、土台を固め、応用も解きやすくなっていました。受験前約2ヶ月前に基礎固めをするのは少し勇気がいりましたが、自分としっかり向き合って今やるべきだと思い、基礎固めに集中してやりました。

受験勉強で一番大切なのは「体調管理」です。私は、年明けから7時間しっかり睡眠を摂り、家庭での勉強時間が減った分を放課中もずっと勉強することで補いました。

とにかくこつこつと勉強を積み重ねてください。

32 愛知医科大学 看護学部 看護学科合格 / 33回生 2014年(平成25年度)卒

私の今の進学先は、看護学科ですが、2年生の春休みまで英米学科に進むつもりでした。学科を変えることによって必要となる教科が世界史から生物に変わりました。2年生の頃は、自分が看護の道へ進むことになるなんて考えてもいなかったもので、生物の勉強をまともにしてきませんでした。基礎もないゼロからのスタートとなりました。最初の模試の結果は悲惨でした。今でも第一志望の学校が受かったのが、嘘のような点数でした。生物・国語・英語の3つともE判定で、もちろん滑り止めの学校もE判定でした。それでも、焦りなどなく、学校の予習や復習をやっていれば、勝手に成績は上がるものだと思っていました。ところが、夏休み前になっても、英語や国語はC判定まで上がったものの、生物はE判定のままでした。そのときはじめて、自分は何かしなければダメなんだということに気が付きました。

夏休みからは、第一希望の学校に受かることだけを考えて勉強しました。LINEやtwitterのアプリを消して、携帯の電源もつけず、部屋のテレビのコンセントを抜いて誘惑を一切断ち切り、毎日朝学に参加して、朝から勉強する習慣を身につけ、帰りも残って勉強しました。夏休みだけでもリードαは3回やったし、教科書・便覧もまとめ、自分で購入したワークブックも3回まわりやりました。もちろん英語の単語も1日600語ずつ覚えては確認、覚えては確認、と毎日続けていたおかげで、冬休み中のセンター対策の教材で英語180点、生物86点、国語96点というようになっていました。しかし、第一志望の大学だけは、最後の最後までA判定は出ず、自分のランクよりも2つも上という遠い存在のままでした。こうして悩んでいるときに、推薦の話が来ました。受験勉強の苦しみから逃げたかったし、このままだと落ちる確率の方が高かったので、推薦を受けようか悩みました。そうして、悩み抜いた結果、一般入試を受けることに決心しました。なぜかという、私は高校に推薦で入学したことに、どこかで逃げてしまったという負い目を感じていました。成績が悪くても、他のみんなは一般で、私は推薦だから仕方がないと努力せず、ただただ負けを認めることしかしませんでした。大学生活では、推薦だからと何かを諦めたり、自分に逃げ道を作ったりしたくありません。努力して頑張るって頑張るってやり抜いて合格できたら、将来の自信につながると思いました。

合格した今では、あの辛い受験勉強を耐え抜いたのだから、それ以上の辛さはないだろうと、大学生活での勉強面の心配はありません。

本当に行きたいところを目指してください。先生や先輩にもいっぱい頼って、ぜひぜひ第一志望に合格してください。

33 藤田保健衛生大学 医療科学部 リハビリテーション学科合格 / 33回生 2014年(平成25年度)卒

まず、皆さんに心掛けてほしいことが3つあります。1つ目は志望校を早く決めることです。私が藤田保健衛生に行きたいと思ったのは2年生のときで、決意を固めるためにオープンキャンパスに3回行きました。今思えば、早く目標を設定して決意を固めたおかげで、モチベーションを高めて勉強できたのではないかと思います。2つ目は、朝学や居残り勉強で1日の勉強時間を確保するという事です。朝学に参加することによって、朝型の生活に切り替えられるし、業後も居残ることで家にいるときよりも集中できます。何よりすぐに先生方に質問できるのが最大のメリットであると思います。また、周りで勉強している仲間を見ることで、自然に「皆はすごく頑張っている。私も頑張らなきゃ」

という気持ちが起こると思います。3つ目は、受験勉強の基本は授業や補習であるということを常に念頭に置くことです。「授業や補習→その日のうちに復習→弱点補強」のサイクルを確立すればスムーズに受験勉強に入っていけるとと思います。何を勉強したら良いかわからない人は、このサイクルが確立できているかどうかを見直すことから始めてみると良いと思います。

次に勉強方法などについて書きます。私は英語がとても苦手だったので、夏休みに基礎を固めるために、とにかくシス単とネクステージを何回も繰り返しやりました。やはり、英語は単語・熟語と文法が基本なので、夏休み中にしっかりやっておくと、2学期からの勉強がかなり楽になると思います。また、生物もあまり得意ではなかったので、手帳サイズのノートに模試の切り抜きや覚えづらい用語をまとめて、通学中や放課などの空き時間を利用して何回も見返すようにしていました。私大で医療系を希望する人は、(特に文系)生物で点を落とすと致命傷になります。生物は早めの対策が肝心です。生物はやればやっただけ力がついていくので、諦めないで頑張ってください。

次にオススメの赤本利用法を紹介したいと思います。赤本は、9月~11月頃から始める人が大半だと思いますが、志望校がある程度決まっている人は、5月頃から手を付けてみてください。赤本は進路室にあるものを使ってください。その時点で解けなくても構いません。なぜオススメかというと、志望校がどのような形式で出題してくるかを知った上で対策を考えることで、効率良く勉強できるからです。

過去問を何年分か読み返して分析すると、生物や歴史のような一見暗記科目と呼ばれる科目も、用語をただ覚えるだけでは本番の試験に対応できないことがわかってきます。(ただし、今年度分の赤本は直前に解いた方が良いでしょう。)私はこの方法で傾向をつかめ役立ったので、皆さんもぜひ試してください。

最後に、勉強をしてもなかなか成果が出なくて悩むこともあるでしょう。実際、私も模試の成績がなかなか伸びず、12月の模試でも第一志望の判定は、D判定に近いC判定のままで、とても落ち込みました。しかし、「絶対にこの大学に入るんだ」という気持ちで、勉強を続けていきました。そして、ようやく成果が出始めたのが、センター試験を目前にした1月頃でした。要するに、「最後まで諦めなければ必ず結果はついてくる」ということです。現役生は入試当日まで成績が伸びます。あくまで模試は模試です。今までの模試の結果がどうであれ、当日に点が取ればよいのです。そう思って勉強してください。そうすれば、きっと上手くいきます。強い意志をもって、これから1年頑張り抜いてください。応援しています。

34 神戸市外国語大学 英米学科合格 / 33回生 2014年(平成25年度)卒

ここではみなさんに私がこの1年間心がけていた3つのことをお伝えしたいと思います。

1つめは、“「点」ではなく「面」の勉強をすること”です。というのも、ある知識量を満たそうと思ったときに、「点」の知識でそれを埋めるよりも「面」の知識で埋める方がよっぽど効率が良いからです。具体的には、私は、1つの英単語を覚えるときについてはその語の派生語も覚えたり、日本史のある出来事を調べるときに、同時代に起きた別の出来事も調べたりしました。文系科目は暗記モノが多いので、こうすると一度に覚えられる知識が増え、効率良く勉強をすすめることができます。

2つめは、“関連づけること”です。何事も一度覚えただけではすぐに忘れてしまうので、私はいろいろと関連させ何度も思い出すようにして、記憶を定着させました。たとえば、日本史の教科書を読んでいるときに文中に出てきた日本語のフレーズから、そのフレーズと同義の英語のイディオムを思い浮かべたり、日常の中で見聞きすることからも、授業で習ったことを関連させて思い出したりしました。考え方は人それぞれだと思いますが、私は机に座って同じことを何度も繰り返して覚えるよりも、こうしてふと思い出す方がより強く印象づいて記憶に残りやすいのではないかと思います。

3つめは、私が最も気をつけていたことなのですが、“人の話を聞くこと”です。(実は、上記の2つはある二人の先生から聞いたもので、私が自ら考え出したものではありません。)

く」というのは、当たり前なこと・基本的なことのようには思いますが、案外、意識をしないとできないことだと思います。というのも、私が言う「人の話を聞く」というのは、単に聞き流すことをいうのではなく、聞いた話を咀嚼し、自分のものにするということであり、簡単なことではないからです。しかし、これができれば成績が上がること間違いなしです。授業、HR、LTなど、話を聞く機会は多々あると思いますが、是非その1回1回に集中し、顔を上げ、話す方の目を見てしっかりと話を聞くことを心がけてください。

みなさんの健闘を祈っています。

35 愛知県立大学 外国語学部 英米学科合格 / 33回生 2014年(平成25年度)卒

僕が受験生生活を通して一番強く感じたことは、授業・補習の大切さ、そして、基礎の大切さでした。

3年生になると、意気込んで、つい参考書を買集めたり応用問題に手を伸ばしたりしがちだと思います。応用問題に積極的に取り組むことは、決して悪いことではないと思いますが、基礎を怠っていることは間違いなく危険です。基礎がなくては応用もないのは言うまでもないのですが、逆に、応用があっても、基礎ができなくては受験は失敗すると僕は思っています。受験における第一の関門であるセンター試験は、基礎力を問うものだからです。そのためには、日頃の授業や補習に専念することが大事だと思います。同級生の中には参考書を買求めたり塾へ行ったりする友人もいましたが、自学や塾の宿題にばかり専念して、授業を疎かにしていた人は、正直言ってあまり成績が変わっていませんでした。受験に必要なことはすべて学校がカバーしてくれます。

次に僕がしてきた英語の勉強法について書きたいと思います。まず日課として、毎日必ずやっていたのは、単語（シス単）と文法（ネクステージ）でした。単語に関しては、「いつの間にか忘れてしまうが、忘れたことに気付いた時は時すでに遅し」という意識でしつこいほど繰り返し取り組んでいました。また、同意語・反意語や派生語までチェックしたり書き足したりしていました。そのおかげで、知らない単語の意味を類推する力や速読力も必要とされる国公立の2次試験でも落ち着いて解くことができました。毎朝配られた速読練習用の長文は必ず読むようにしていました。

受験とはやはり、最後まで努力を積み重ねた人が勝つものだと思います。あせらず、地道にコツコツやっていけば、報われる日が必ず来ます。最後まで諦めないで頑張ってください。

36 愛知県立大学 日本文化学部 国語国文学科合格 / 33回生 2014年(平成25年度)卒

まずは私の失敗から書こうと思います。

私は5月いっぱいまで陸上部に所属していました。引退するまではひたすら部活に打ちこんできたので、終わってしまうと全くやる気が起こらなくなってしまいました。“一応”受験生だし、ということで“なんとなく”授業や補習を受けてきました。（このころは予習も結構適当でした。）土日は部活気分が抜けないまま仲間と一緒に図書館へ勉強するために行き、ほとんど勉強せずおしゃべりをして帰る。こんな生活をお盆まで送っていたのです。それを制する者は受験を制す、と言われるその大切な夏を棒に振ってしまったのです。後から目茶苦茶後悔しました。早いうちから勉強しておけば、辛さも不安ももう少し軽くすんだと思います。このように、かなり遅いスタートになりました。

つまり、何が言いたいかというと、私は夏が終わるまで受験生であるという自覚が全く足りなかったということです。部活が終わったらすぐに切り替えてください。そして、仲間のことはしばらく忘れてください。切磋琢磨することは大切ですが、お互いの勉強に干渉することはイコール足を引っ張り合うことになります。受験が終わったらいくらでも遊べるのでしばらくは我慢してください。あっという間ですから。私のように絶対ならないでください。

つづいて助言を2つ。

1つ目は、予習復習が一番の受験勉強になるということです。ボーっとしていると流れ出て行ってしまいう授業内容は、予習復習によって留めておくことができます。1回の授業でもかなりの情報が行き交います。学校を1日休んだだけで遅れていったという経験をしたことある人もいるでしょう。授業や補習から得られるものは非常に大きいです。勉強する習慣が身につけていない人は、ひとまず予習・復習を取っ掛かりにしていくといいかもしれません。

2つ目は、現代文に力を注いでほしいということです。現代文ができるようになると英語の長文読解にも生かせるようになります。本文中の重要なところや問いの答えに当たるところを見抜く力がつくわけですから。当然、単語や文法を覚えた上でですが。国語は早いうちから勉強していくことをおすすめします。読む力はもちろんのこと、書く力は一瞬でつくものではないからです。実は私自身も国語だけは早い段階でやっていたので、全体的に遅いスタートでもなんとか合格できたのだと思います。ただ問題を解くだけでなく、復習として本文のポイントをまとめて100~200字程度で要約してみるといいかもしれません。80字くらいの字数指定の問いに当たってもビビらなくなるでしょう。

勉強しだすと訳がわからない問題にぶち当たったり、思っていたより成績が上がらなかつたり、と辛いことがいっぱい待っています。でも、諦めることなく根気強く取り組み続ければきっと合格できます。辛い思いをする分、合格に近づいていけます。粘り強くがんばってください。

37 愛知教育大学 初等教育教員養成課程 幼児教育選修合格 / 33 回生 2014年(平成25年度)卒

受験を終えて、私が大事だと思ったことを記します。それは「後悔しない選択をすること」です。

私がした後悔しない選択は「志望校を最後まで変えない」ということでした。私は中学生のときから保育士になりたいと思っていました。そこで、1年生のときから、県内の大学で幼稚園教諭の免許と保育士の資格の両方をとれるからと愛教大を志望していました。正直言って最初のころは、そこまで愛教大にこだわってはいませんでした。しかし、資料を読んだりオープンキャンパスに行ったりしているうちに、愛教大に入りたいという思いがだんだんと強くなっていきました。そして迎えたセンター試験。直前のセンター演習でそこそこ点が取れるようになって油断していたのか、つまらないミスばかりしてしまい、結果は愛教大のボーダーにとどかずC判定でした。私はもっと可能性のある大学に変えようか悩みました。そんなとき、友人が「1年のときからずっと志望してたんでしょ？ここで諦めたら絶対後悔すると思うよ。」と言ってくれました。その言葉のおかげで私は「最後まで愛教大めざして頑張ってみよう」と思いました。自分が納得のいく選択ができたからこそ、前期試験まで頑張ることができ、その結果、無事愛教大に合格できたのだと思います。もしあのとき違う大学に変えていたら、今、絶対に私は後悔しているでしょうし、ひょっとしたら勉強に身が入らず、どの大学にも合格できなかったかもしれません。みなさんにも是非「後悔しない選択」をしてほしいと思います。

次に、私は実技試験を受けたので、実技や面接について書きたいと思います。私が、実技や面接を受ける人に伝えたいことは「最後まで諦めないでほしい」ということです。

実技や面接はとても緊張します。だから、ミスをすることもあると思います。しかし、1回ミスをしたからといって諦めないでください。入試などの大事な場面では些細なミスをしただけで「もうだめだ…」と思ってしまいがちになるかもしれません。しかし、失敗したと思ったらその失敗を取り返せるくらい頑張ればいいのです。たとえば、入室するとき緊張して挨拶の声が小さくなってしまったな、と思ったら、退出するときは大きな声で言うといったように。実際、私は実技で「いぬのおまわりさん」を歌ったのですが、緊張しすぎて題名を聞かれたとき「まいごのこねこちゃん」と答えてしまい、焦りましたが「歌を全力で歌えば大丈夫。」と自分に言い聞かせたら、落ち着いて歌うことができました。緊張したときやミスをしてしまったときは「自分なら絶対に大丈夫」と多少自信過剰になってみるといいかもしれません。

これからいろいろとつらいことがあると思いますが「受験は団体戦」という言葉を忘れずに、周り

の人と支えあって乗り切って行ってください。私のアドバイスが参考になるかはわかりませんが、少しでもみなさんの役に立てばいいな、と思います。

38 岐阜大学 教育学部 学校教育教員養成課程 家政教育講座合格 /

33 回生 2014 年(平成 25 年度)卒

私の受験勉強は、学校の授業や補習が中心でした。3年生になると特に、学校での勉強が占める時間の割合が大きいのでこの時間に学んだことをどれだけ吸収できるかでかなりの差がでると思います。この時間を意味あるものにするために予習・復習は大事です。予習をせずに授業を受けて、ただ黒板を写すだけで力はつきません。予習をして分からないところは調べます。授業は、答えあわせをするような感覚で、予習で調べたことを確認したり、分からなかったところや違ったところを理解します。そして短い時間でもいいので復習します。このおかげで基礎が固められたし、授業や補習は次第に難易度が上がっていくので、それにつれて応用力もついていったように感じます。

それから模試も大事にしてください。結果を見て一喜一憂するだけではもったいないと思います。受験までの道のりは長いので、私は模試を1つの区切りとして考えていました。まず、次の模試の目標を決めます。このとき点数を何点上げる、偏差値をいくつ上げるなどと決めるだけでなく、そのために何をするかまで決めることが大事です。例えば、1日に問題集を何ページ分やる、単語は何個ずつ覚えるなどです。1日単位で計画を立てておけば範囲が終わらないということがありません。1日のノルマをクリアしていくことで達成感が得られたのが自分にはあっていました。模試が返ってきたら必ず見直します。日本史や生物などの暗記科目だと特に、同じような問題が別の模試、本番で出る可能性が高いです。見直すときは、正解した問題まで見直します。マーク模試だと勘であたっていることも多々あるからです。模試の解答に書いてあることはすべて覚えるつもりで読み、不安なところは1冊のノートに書き写したり、切り抜きを貼ったりして、隙間時間に見たりしました。

南高には朝早くから夕方まで熱心に指導してくださる先生方や、時にライバルであり時に支えあう仲間がいます。この環境で自ら意欲的に学べば、自ずと学力はついてくると思います。なかなか結果が出なくて苦しいときは、不安で逃げ出したくなることもあります。 “〇〇大学に行きたい” という気持ちを忘れないでください。その気持ちがあれば頑張れるはずですよ。

皆さんが志望校に合格できることを願っています。

39 岐阜大学 地域科学部合格 / 33 回生 2014 年(平成 25 年度)卒

受験を終えて、やってよかったと思うことは、夏休みまでに基礎を重点的にやったことです。私は英語が得意科目だったので、得点源にしようと思い、ネクステを夏休み中に3まわり以上やり、シス単もすべて覚えました。また、学校で配布されるプリントもすべてやりきり、間違えたところは理解するまで何度もやり直しました。英語の毎日プリントと、英語長文問題精講はすごく役に立つので、しっかりやった方がいいと思います。センター前は、苦手な国語の演習の復習をしっかりとやりました。センター前最後の模試で過去最低の点数を取ってしまった私が本番で成功したのは、この復習のおかげだと思います。

後悔したことは、数学と生物の復習をおろそかにしてしまったことです。センター前の授業でやったことが本番でも出たのですが、復習をしっかりとやっていなかったために答えを出すことができませんでした。周りの友達が解けたと言っているのを聞いて、復習しなかったことを本当に後悔しました。それだけでなく、数学をセンター直前まで避けていたので、ⅡBの苦手を克服することができず、大失敗をしました。

こんな私が受験勉強を頑張れたのは、応援してくれる友達がいたからだだと思います。センター前日や国公立2次試験前日に、受験を終えた友達が応援メッセージを送ってくれました。そのおかげで、不安や緊張をほぐすことができました。受験は個人戦ではなく、団体戦です。クラス一丸となって最

後まで諦めずに、志望校合格目指して頑張ってください。

40 大阪市立大学 法学部合格 / 33 回生 2014 年(平成 25 年度)卒

受験を終えてみなさんの参考にしてほしいことを書き連ねていきます。

1. 勉強スタイルの早期決定

自分は高1～高3の9月まで塾に行きましたが、先生と相談した結果、塾をやめ、学校中心の勉強生活に切り替えました。これは悪い例です。早めにスタイルを決める、例えば図書館に週5回行くとかの方が効率が上がります。自分で追加の課題をしたり、塾に行ったりすると、一番大切な予習復習がおろそかになって、身につくものもつかなくなってしまいます。

2. 予習、復習の徹底

予習のしていない授業は受けても意味が無いです。寝てるのと変わりません。忙しく、予習が雑になってしまうなら、最低限のことだけはするべきです。国語なら、本文に目を通し、筆者のおおまかな考え、問題作成者の視点を考察しておきましょう。数学なら、問題の全体の把握、英語なら、わからないところに印をつける程度のことはしておくべきでしょう。復習はその日の夜、または次の日の朝学で行うといいと思います。授業で学んだことは案外忘れていきます。読み返すだけでも復習は必ずやるといいです。

3. センター前の時間の使い方

とにかく時間が無く焦ります。集中してまとまった勉強時間を確保したいのなら、朝学、居残り自習の利用をお勧めします。センター前の12月～1月は予習復習で、まとまった自分の勉強時間はほぼとれません。朝7時から学校で朝学、夕方6時まで居残り自習を毎日きついです。センター試験の弱点克服にはよく効きます。スキマ時間で英語や古典の単語の暗記は効果的です。

最後に現役生のみなさん、2年生のときサボった、または苦手な教科はありませんか？3年生の夏休み～秋までには通常授業の内容は終わります。いかに早く2年のサボりのツケを払うかが、最後のセンターの結果を大きく左右すると思います。悔いの残らないように頑張ってください。

41 名古屋大学 文学部 人文学科合格 / 33 回生 2014 年(平成 25 年度)卒

受験勉強を頑張り通すために、友達存在は大きいです。「この教科でこいつにだけは負けない」って思える友達がいると良いかと思います。その友達と、たまに息抜きがてらのくだらない話ができると尚良し。友達じゃなくても、自分が勝手にライバル意識を燃やしてるだけでも良いかと。自分の勉強量が目に見える形で現れるようにすると自信が増します。数学で使った計算用紙や、なかなか書けなかった英単語を練習した紙なんかを捨てずに積んでおいたり、1週間の目標勉強時間を決めて、その時間分のマス目を紙に書いてやった時間だけ塗りつぶしていく(すごく楽しい)などなど。

南高にはこれまで数多くの受験生を送り出してきた熟練の先生方が多くいらっしゃいます。その先生方を信じてついて行くことが一番かなと思います。心が折れそうになったら進路室や職員室に駆け込んでみてください。きっと心優しい先生方から叱咤激励、御指導御鞭撻が頂けるかと思います。1年間頑張ってください。

42 愛知教育大学 初等教育教員養成課程 情報選修合格 / 33 回生 2014 年(平成 25 年度)卒

今振り返ると、3つのモチベーションが大切だと思います。僕は勉強の仕方ではなく、心の持ち方について伝えようと思います。

①「目標」というモチベーション

もっとも大切なことは、目標を立て、それに向かって日々努力をすることかなと思います。僕が教師になろうと決めたのは高2の1月でした。その気持ちはぶれることなく、絶対愛教大に入ってやる

という目標を3年生で立てました。浪人覚悟で私立は受けず、愛教大本だけ受ける決意を固めました。もちろん周囲から反対の声は多かったけれど、逆に「愛教大に合格して、周りを喜ばせてやる」というモチベーションになって、勉強を続けることができました。目標があれば勉強に手をつけられるようになるので、必ず目標を立てるようにしてください。

②「仲間」というモチベーション

学校に一番に来て朝学をし、昼放課も進路室前で勉強しました。野球部で夏大会の3回戦まで勝ち進むことができたので、それまで部活に精いっぱい取り組んでいました。部活を時間不足の理由にはできないので、時間を上手に使って、部を引退してから差を縮めていきました。野球部の仲間と一緒にやっていたので、辛くても最後までやりきることができました。受験は一人ではできません。部活の仲間とともに取り組んで、ほとんどの仲間が第一志望校に合格することができました。

③「2次逆転」へのモチベーション

実はセンター試験を失敗しています。採点が終わってから1週間はペンも握れないほどショックでした。でも、担任の先生が何回も何回も面談をしてくれました。違う大学を紹介されましたが断りました。それでも先生は考えてくださり、愛教大の中で2次逆転が可能なところを紹介してくれました。自分自身は「中等数学」といって、中学の数学の免許が取れるところをねらっていました。それを考えて下さり、「初等情報」という小学校の先生にもなれるし、中学校の数学の免許も取れるところを紹介してもらいました。自分のセンターの点で、昨年合格した人はいませんでした。しかし、先生方、親、先輩、仲間からの後押しもあり、モチベーションも上がり、再び勉強を始めることができました。理系は2次逆転が可能です（進路談：文系も可能です）。最後まで諦めず努力してください。自分自身は2年3年と同じ担任の先生で、本当に自分の気持ちを理解してくれたし、何度も何度も面談をお願いしました。南高の先生方は、皆の気持ちをわかった上で話をしてくれます。ぜひ相談してみてください。

最後に自分が好きな英語を紹介します。「Never give up! Never too late!」（決して諦めるな 決して遅くない）まだまだ時間がたくさんあります。と言って、油断は禁物です。自分の第一目標を目指して突き進んでください。

43 秋田県立大学 システム科学技術学部 電子情報システム学科合格 /

33 回生 2014 年(平成 25 年度)卒

まず、自分は勉強ができるほうではなく、どちらかというと周りの誘惑に負けてしまうタイプなので家ではほとんど勉強できるような人間ではありませんでした。だから必要科目の補習はすべてとっていました。補習に出れば嫌でも予習をしたり、その時間は勉強せざるを得ません。自分は「この時期から本格的に勉強し始めた」というのはなく、基本的に学校の流れでこの1年を過ごしてきました。自分でそんな僕でも県立の大学に合格できるのですから、学校の補習内容はしっかり身になるものだったと思います。ぜひ、補習に出ることをお勧めします。夏休みは正直、苦行でサボりたいと思うことも多々ありました。ですが、それぐらいの忍耐力がなければ受験なんて乗り越えられなかったな、と今になって思います。

次に、模試に関してですが、これは1つしか言うことは無いです。それは模試の結果を気にし過ぎないことです。いちいち一喜一憂したところで成績が伸びるわけでもない、今の自分の学力の目安だと思っただけでいいと思います。受験当日に関しては全く緊張しませんでした。これは僕だけの考え方もかもしれませんが「正直、やることはやってきたつもりだしできると思うけど、解けるものは解ける。解けないものは解けない。まあ、できない問題があったら仕方ない」という気持ち（ポジティブな意味で）で試験を受けていたので、かなり気が楽でした。一番よくないのはネガティブな気持ちで受験することだと思います。自分の気持ちに負けていては周りの勝てる人間にも勝てないと僕は思います。それと、誘惑に関してですが、漫画は一切買いませんでした。買ってしまつとそのまま

ま読んでしまうので、リストのようなものを作り卒業後に買う楽しみとしていました。また、僕はスマホではなかったので携帯に時間を取られることはありませんでしたが、パソコンでブラウザゲームをしたり動画を見たりするのが好きだったのでパソコンもかなりの誘惑でした。「パソコン起動可能時間は夜9時から10時まで。30分以上オーバーしたら1週間起動できない」と書いた紙をテープで張っておき、携帯のアラームを夜の10時と10時25分にセットして自分を抑えていました。最後に、学校の先生方の言うことはきちんと聞くべきだと思います。たとえ、自分が「それは違うんじゃないか?」と思ったり納得できないことであつたりしてもしっかりと参考にし、考えてみるべきです。先生方のほうが圧倒的に経験が上です。何百、何千人もの受験生を見てきています。正直、たかが高校生の夢見がちな思考よりも、そんな先生方のほうがしっかりとした根拠があるはずです。先生方も快く相談に乗ってくれます。そんな先生方を頼りにするというのも受験成功への1つのポイントだと思います。

44 高知工科大学 システム工学群合格 / 33 回生 2014 年(平成 25 年度)卒

僕はセンター試験が終わったちょっと後まで、第一志望であった大学に2次逆転で行けるんじゃないかと思ってました。だけど現実を見ました。何があっても無理です。今では浪人しても行ける気はしません。けれどもそれで良かったと今では思います。なぜなら、最後まで諦めずに勉強ができたからです。そして諦めなかったからこそ今無事に大学生になれたと思っています。第一志望ではないとは言え、受かったときはすごく嬉しかったです。

さて僕が自分で本気で勉強し始めたと思えるのは、夏休みが終わってからの9月からでした。夏休みはとことんサボってしまいました。なぜならライブ(バンドに限る)にはまってしまったからです。6月のライブを最後に行くのをやめるはずのライブでしたが、夏休みにあった無料のライブに対して「無料なんだからこれは行くしかないっ。」ってことになってしまいました。結局夏休みはその欲に邪魔をされあまり勉強に集中できませんでした。夏休み前に先生に「夏休みが勝負だ。」と散々言われたにも関わらず、こんなことになってしまったのは少し後悔しています。その後そのライブ欲は、受験が終わってからライブに行きまくってやるという勉強へのやる気へと繋がりました。つまり言いたいことは、『先生の言うことにはしたがうべし。』『後悔をしないようにするべし。』『自分をうまくコントロールするべし。』ってことです。

それからの自分はいろいろありました。いろんな勉強スタイルをとってみました。夜は12時に寝て朝5時に起きて勉強してみたり、ほんとに焦りを感じていたときには睡眠時間を減らして勉強したりもしました。そうすることによって後々影響が出て、土日に半日丸々寝てしまったりと、あまり意味がなかったと思えます。ですから勉強できるうちにたくさんやって自分に自信が持てるようになれば、それはもはや最強だと思います。部活が終わってからすぐ切り替えるのは相当難しいと思います。だけどこれができればその後の勉強も上手くいくんじゃないかと思っています。

自分の勉強法なんですが、文系科目(暗記科目)に関しては分からないところを書き出したり、とにかく自分なりにまとめてみました。とくに単語系に関しては暗記カードをつくりました。多分これが自分にとってベストな暗記の仕方でした。あとはこれらを何回も何回も見直すことによって暗記の苦手な僕にも有効でした。そして理系科目は基本事項を固めてあとはどんどん難しい問題へと解けるようになっていきました。これはほんとに経験がものをいう科目なので、ひたすらに解きまくることが有効だと思います。自分はこんな感じで乗り切ってきました。基本的に変わったこと難しいことはほとんど何もしなかったように思います。

実は僕は、私立はこの辺でも底辺と思われる大学に1つしか受かりませんでした。それも、自分では結構できたと思った大学にも落ちてしまいました。ですがそれが逆に良かったのです。自分を改めて見直すことができました。そのときの試験では数学と物理でしたが、数学にはかなりの自信があったのですが、物理に関しては理系ながらほんとに苦手で、しかもセンター終わってすぐということも

あって全くできた気はしませんでした。案の定落ちたわけですが、そのおかげで全部の私立の試験が終わってからは、物理に本気で取り組むことができました。そしてC判定であった高知工科の本試験が終わった後には、数学も物理も（高知工科も数学と物理だけでした）自信を持つことができました。ホームページで自分の番号を発見したときには、高校の合格発表のときとは違い、遥かに嬉しかったし達成感もありました。

最後にですが、これがあるとほんとに便利だと思うものです。それはストレス発散法とかこれだけは自分がいくらやっても飽きないものです。自分の場合それは音楽（バンドに限る）でした。勉強していてイライラ、ストレスが溜まってきたときはとにかく激しい曲でも聴いてヘッドバンしてだいぶ解消することができたし、あまりやる気が出ないときにはやる気が出る曲、なんか一人で寂しくなったときもなんか意味わかんない変な気持ちになったときも、何かあるたびに音楽を聴いてきました。それなのになぜか耳が疲れて聴かなくなることがあっても、決して聴き飽きることはありませんでした。こういう何か1つでいいからこの様なものがあれば勉強もはかどるんじゃないかと思います。それと仲間でありライバルでもある友達です。互いに刺激し合い、どんどん頭が良くなったと思えることも何度もありました。教えてあげたり教えてもらったり、友達も非常に大切な存在でした。

模試等で悪くて落ち込むのも、良くて喜ぶのも一瞬で十分です。模試がどうであれ最後にはセンター試験・2次試験。何があろうと自分のベストを尽くすのみです。凡ミスだけには気を付ければあなた方ならできます。自分を信じてやってください。

45 富山県立大学 工学部 機械システム工学科合格 / 33 回生 2014 年(平成 25 年度)卒

勉強の内容ややり方は人それぞれなので、いろいろ試して自分にあったやり方を早めに見つけるのが大切。

自分は、家だとなかなか勉強に集中できなかつたので、補習の後や土日は図書館に行って勉強しました。図書館の良いところは、どうしてもやる気のでないときも、図書館に行く他校の受験生が必死で勉強していて、『自分もやらないといけない。』と思い、自然とやる気が出てきます。だから、家で集中できなかつたり、いまいち気分が乗らないときは、とりあえず図書館に行くといいかもしれません。

あと、補習はとても力になるのでサボらずにしっかり参加してほしいです。そして、最低でも授業・補習の予習復習はやった方がいいです。模試の点数が悪くても、ほんとうにセンター直前まで点数はのびるから、最後まで諦めずにやり抜いてほしいです。テスト直前は比較的簡単な問題を解いて、いいイメージのまま本番に臨むといいです。

46 鳥取大学 工学部 土木工学科合格 / 33 回生 2014 年(平成 25 年度)卒

僕が3年生になって気がついた4つのことを今から述べたいと思います。

1つ目。単語系は、特に英単語だけは毎日やった方が絶対にいいです。本当に時間をたくさん削られるのでやらないと後悔すると思います。個人的にイメージやゴロで覚えるのが好きだったので僕はゴロをつくっていました。

2つ目。できるだけ毎日学校に残った方がいいと思います。図書館や、家でできる人ならいいですがどこでやってもいまいちという人は、学校がオススメです。僕は学校で勉強しているときが一番集中できました。一番おそくまで学校に残って勉強していることが勉強している感じがして好きでした。

3つ目は、職員室を味方にする事の大切さです。先生は本当に色々なことを知っていてアドバイスを沢山くれます。「こんなことで困っています」と先生に伝えるとわかりやすい説明をつくってくれたり、プリントをくれたり、勉強のしかたを教えてください。本当にありがたいです。ぜひ職員室をフル活用して下さい。

そして4つ目。3年になって良い結果がでないのは当たり前だということです。なぜなら、みんな

が勉強しているからです。サボればサボるほど周りとの差がでます。そうならないように踏ん張って下さい。最後の最後に諦める人がいます。諦めないほうがいいと思います。勉強を楽しんでいると思って下さい。勉強ができないのならできるきっかけを見つけて下さい。それは、学校にあると思います。受験は大変だと思いますが、楽しみながら、頑張ってください。

47 福井大学 工学部 建築建設工学科合格 / 33 回生 2014 年(平成 25 年度)卒

僕は1・2年のときにしっかり勉強をしてこなかったもので、3年生になってもうすごく大変でした。僕は基礎・基本がまったくできていませんでした。僕がやった過ちは、基礎・基本ができていないにもかかわらず問題を解き始めてしまったことです。これでは、頭にしっかり定着できないのでやめたほうがいいです。まず、最初にやるべきことは、基礎・基本をしっかりと頭に入れることだと言われます。だからと言って、基礎・基本に時間を費やしていれば、自ずとスタートが遅れてしまいます。だから、早めに取り組んでください。

受験生にとって最初の勝負は夏休みです。ここで差がつきます。ここではまず弱点を克服して、得意科目の向上をはかりました。僕は化学と英語が弱点でした。化学では、無機・有機はまったくできなかったもので、反応などを資料集の写真をしながら理解を深めました。また、暗記カードをつくり、隙間の時間にやりました。英語では、必須の単語・熟語を覚え、先生と1対1で文法の特訓をしてもらいました。授業や補習でわからなかった単語・熟語をノートに書き出して、自分の単語帳をつくりました。得意な数学と物理では、問題を解きまくり、わからなかったことをチェックして、解けるようになるまで繰り返しました。夏休み以降は、センター過去問をやり、わからなかったところをノートにメモって勉強ノートを作り、復習しました。勉強ノートは、センター試験前の空き時間に活用しました。

センター直前に大切なことは体調管理です。僕はセンター試験の2日目に体調不良を起こしてしまい、本試験を受けられず、追試験を受けることになりました。追試験では、本試験より少し難しくなると言われています。しかも、試験会場は遠いので、本当に辛いです。なので、センター試験では、必ず本試験が受けられるように体調管理には本当に注意して、ベストコンディションで挑んでください。

成績がなかなか上がらず不安になると思います。だからと言って諦めるのはよくないです。僕は第一志望の模試の結果は毎回DかEという判定でした。ずうっと思うように成績が上がらず悩んでいました。何回も志望校を変えようと思いましたが、福井をずうっと第一志望にして変えないで努力しました。センター試験の判定で初めて判定がBになり、諦めなくてよかったなと思いました。皆さんも最後まで諦めないで頑張ってください。

48 福井大学 工学部 電気・電子工学科合格 / 33 回生 2014 年(平成 25 年度)卒

僕が受験するにあたって大切だと思ったことは、自分の勉強に対するモチベーションを維持することです。僕は3年の最初の頃はあまり勉強に対して意欲的になれず、長い時間机に向かうことができず適当に課題をやったり、ボーっと単語帳を眺めたりと、あまり意味のない勉強をしていました。そんな僕の勉強に対する姿勢が変わったのはそのとき、第一志望にしていた大学のオープンキャンパスに行った後からです。実際にその大学に行き、その大学の空気にふれることで、よりその大学についての理解を深めることができ、オープンキャンパスに参加する前よりその大学に行きたいという気持ちが強くなりました。絶対にこの大学に合格してやる、と思えるようになり、明確な目標を持つことで勉強に対するモチベーションを維持することができるようになりました。ここから自分は勉強に対しての姿勢を改め、意欲的に取り組むようになり、机に向かう時間もそれだけ長くなり、そして勉強の質も上がりました。モチベーションを維持するにあたって大切なことはストレスを溜めないことです。ストレスが溜まっていたら勉強に対して意欲がわかなくなったり勉強の質が落ちたりということが

ありません。勉強でストレスを感じて嫌になったときは、一旦勉強の手を休めて軽い運動をしたり仮眠をとるなどして勉強のことを忘れられる時間を作ることが大切です。ここからは僕がしてきた勉強について書いていきます。僕はセンター試験までの間はほとんど基礎だけをやりました。なぜなら、センター試験の問題は基礎ができていれば解ける問題であるし、基礎が完成していれば2次試験の問題もある程度解けるようになるからです。具体的にどのようなことをやったかという、数学はチャートをとにかく何周もやりました。物理は現象を理解することから始めて、基本的な問題が載っている問題集をチャートと同じく何周もやりました。問題集は1周やるだけではあまり意味がなく何周もやってやっと成果が得られます。暗記教科は各教科ごとにわからなかった単語などをメモするためのノートをつくって放課中にそれをちょっと見るなどして勉強していました。特に地理は一度すべてのことをノートにまとめると、頭の中で情報が整理されるのでおすすめです。センター試験後の主な勉強は補習の予復習と志望校の赤本になります。予復習をしっかりとやるのが大切になります。とにかく、勉強には必ず根気が必要です。根気よく勉強をするにはモチベーションを維持することが大切です。受験は大変ですが、受験が終わった後には楽しいことしかありません。みなさんめげずに頑張ってください。

49 福井大学 医学部 看護学科合格 / 33 回生 2014 年(平成 25 年度)卒

私は部活動を引退するまで部活にすべての力を注ぎ、テスト勉強以外の受験勉強は全くしていませんでした。だんだん周りの子が受験モードに切り替わり、私もそこでやっと受験生になれた気がします。夏休み、毎日の補習が終わった後は、友達と学校に残り勉強しました。休みの日は図書館に通い、友達や他の学校の同じ受験生から刺激を受けながら勉強しました。しかし、思ったほど成績は伸びず、模試での志望校の判定はいつも届かず。夏休み後に少しずつ伸びてきた実感はありましたが、まだまだ志望校には手が届かない状態でした。

センター本番で私は自分自身の最高得点を取ることができました。これは、夏休みの図書館通い、毎日の学校での朝学、居残り学習と、冬休みの追い込みのセンター演習のおかげだと思っています。時間をかけて勉強をしても点数が伸びず、泣きながら先生に相談し迷惑をかけたこともありました。しかし、先生方は優しく声をかけて私を最後まで支えてくださいました。みなさんも進路に困ったらぜひ先生に相談してみてください。

一宮南高校の先生はきっと優しくアドバイスをくれます。それぞれ、人にあった勉強方法、勉強時間があると思います。家で勉強できる人、勉強の時間より質にこだわり短時間で効率の良い勉強ができる人。私は毎日提出する学習記録に平日は4時間、休日は10時間と書くことを目標にその時間の分は必ずやろうと勉強していました。長時間の勉強ができたのはこの小さな目標があったからです。

1年生、2年生のみなさんはまだ時間があります。部活動をやっている人達は、家に帰ると疲れてなかなか勉強なんてできないと思いますが、テスト週間などにさまざまな勉強方法を試してみてください。そして受験生になる前に、自分に合った勉強方法を探してみてください。そしてなにより、どの教科も基礎がとても大事です。センターの問題は、1・2年生の学習内容で解ける問題も多くあります。応用問題も、基礎があつての応用です。受験生のみなさん。部活動をやっている人達は、ぜひ、最後の大会まで部活動に全力を注いでください。部活動で培った精神力、体力は必ず受験生活の後押しをしてくれます。

受験は団体戦です。引退して教室に戻ると、周りのみんなが受験モードで嫌でも受験生になれます。

看護科を目指すみなさん。看護科の2次試験は小論文や面接がある学校が多くあります。私も実際、2次試験は小論文と面接でした。練習したこともないし、不安も多くありました。小論文や面接と言っても、他の学科の小論文や面接とは少し違います。看護科のこの2次試験は看護師になるための適性を見られています。そのことを知り、私も不安になりました。しかし、安心してください。一南では看護科担当の先生がついてくださり、面接や小論文の練習に熱心に指導して下さいます。私もこ

の担当の先生のおかげで、当日の入試は自信を持って臨むことができました。

最後に、私は勉強が本当に嫌いでした。今も嫌いです。第一志望に受かりたいという気持ちだけでこの1年を乗り越えることができました。受験生の1年は思い返してみるとあっという間です。みなさんも、志望校を決めたら、揺らぐことなく、その目標に向かって、ただひたすらまっすぐ突き進んでください。やれば必ず結果がついてきます。やらなければ結果なんてついてくるわけではないのです。受験を乗り越えた人は、毎日遊べる春休みが待っています。

50 広島大学 理学部 物理科学科合格 / 33 回生 2014 年(平成 25 年度)卒

自分が、この1年間の受験勉強で大切だと思ったのは、目標をしっかりと決めることです。やはり、勉強をしていく中で目標があると、メンタル面で違ってきます。最初は模試でE判定であったとしても、もっと頑張れば次はD判定にしようと思うからです。みなさんは今現在しっかりとした目標を持っていますか？持っていない人もいます。持っていない人は今すぐにでも決めるべきです。さらに言うと、今の自分の学力の2つぐらい上の大学を選ぶべきだと思います。ただし、目標を決めたらセンター試験までは変えてはいけません。そうすることで、嫌でも勉強しなければいけないという強い気持ちを持ち続けることができるからです。

次に大切なことは、学校をフル活用することです。こんなことを聞くのは失礼かもしれませんが、皆さんは、予習を含めて授業を集中して受けていますか？これからの受験勉強の中で、予習をせずに授業をぼーっと受けても何の意味もありません。こんな風に過ごしては、他校のライバルにどんどん差をつけられていきます。だから、授業をフル活用しましょう。さらに、自分は家で勉強できなかったので、学校の朝学や業後には、残って勉強しました。南高の先生はみんな良い先生ばかりなので、しっかり教えてくれると思います。学校での時間を大切にされた方が良いと思います。

次に大切なのは、参考書の活用と睡眠です。参考書はいろいろな種類の本を一回りだけやるのではなく、1つの参考書を何回周りもやることです。そうすることで、自分のできない部分がわかり、かつ、わからない部分をしっかりとつぶしていくことができるからです。自分は毎日6時間睡眠時間をとっていました。睡眠によって体調を整えなければなりません。風邪なんて引いては元も子もないからです。

最後に大切なことは、今までだめな結果だからといって、簡単にあきらめてはいけないということです。自分は高校最初のテストで、280人中230位ぐらいからのスタートでした。さらに、部活もあり、なかなか勉強に集中してやることもありませんでした。しかし、最後まであきらめずにやってきて、センター試験で校内4位を取れるまでになりました。これからの受験勉強でいろいろ辛いことや大変なことがあるかもしれませんが、最後まであきらめずに頑張ってください。

51 名古屋工業大学 工学部 情報工学科合格 / 33 回生 2014 年(平成 25 年度)卒

志望校に受かった、このときの気持ちは言い表せません。そんな今まで味わったことのない嬉しさを一人でも多くの人にも味わってもらう助けになればと、自分なりの受験の考えをまとめたと思います。

初めに、今思うように点数がとれない人へ。まだ、諦める必要はありません。自分も英語ができませんでした。WRなんて、クラスで最下位のときすらありました。センター前に点数は上がったし、センターでは自己最高点が出ました。最後まで諦めなければ大丈夫。

今できている人や得意科目のある人へ。模試は、初めのうちはみんな点数が取れません。悪い結果でもそんなに気にする必要はないです。結果が良くなったら、得意な科目は1つ上のレベルの大学で見てください。できた自信を持つのは大事です。問題は次です。それに満足しないで次を目指すのが模試のモチベーション維持の「コツ」です。得意科目は志望校の1つ上のライン、苦手科目は志望校の安全ラインを目指して頑張るといいです。そして、自分がそれに向かって頑張れる志望校を悩ん

で選んでください。

自分と同じように英語の苦手な人、英語を伸ばしたい人へ。英単語は「絶対やっておくべきこと」です。去年先輩のアドバイスを見て、「まあ単語は大事でしょ」と思っていました。僕がセンター前に点数が上がった理由に単語があります。単語をやる前、スランプでどんどん点数が落ちていたのですが、そのスランプ脱出の糸口を開いてくれたのが単語でした。ここまで上がるのは稀だとしても、実際に単語学習から点数が上がった先輩はたくさんいるので、だまされたと思って早めに始めて、あわてることなく夏休みに終わるようにやってみてください。

あまり良いアドバイスにならなかったかもしれないけれど、僕からはこう言えます。「苦手科目こそ最後まで何があるかわからない」ということです。諦めずに3月まで頑張ってください。